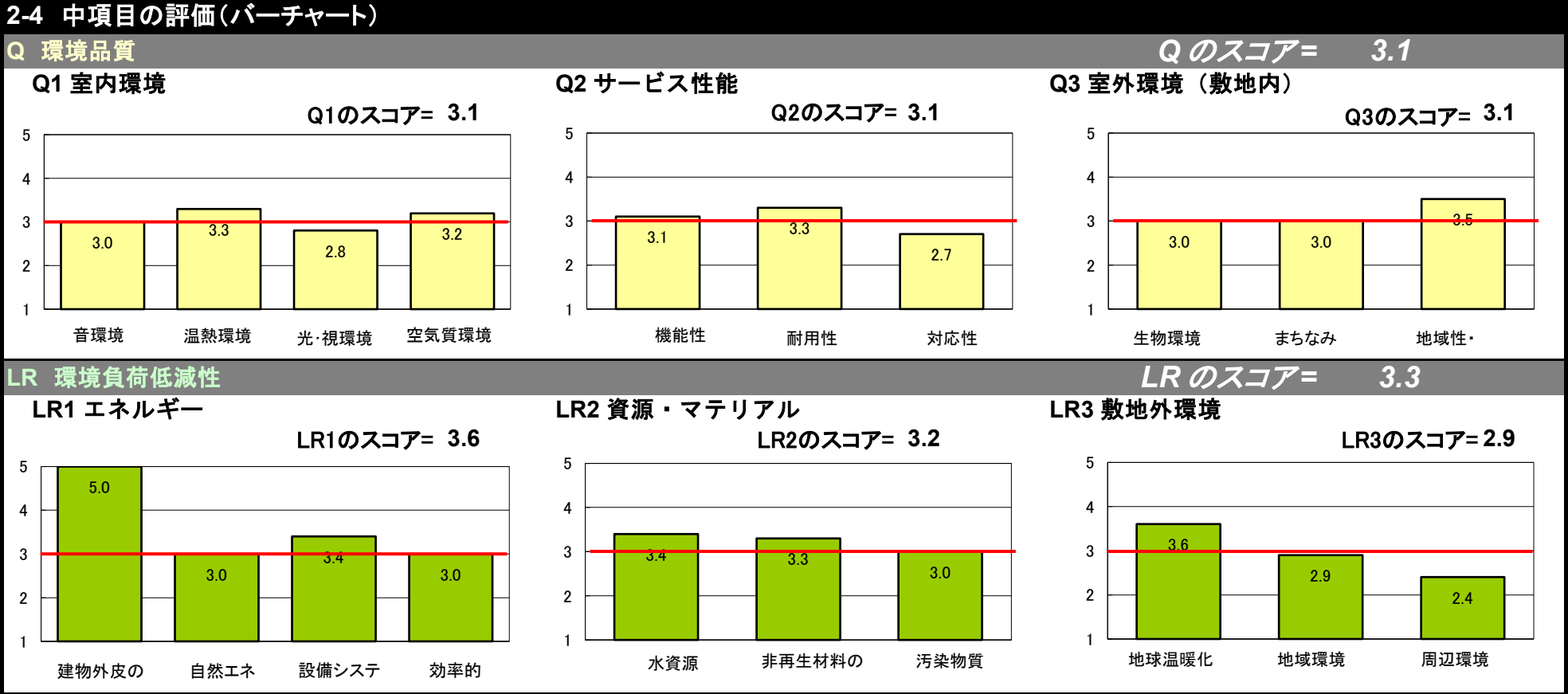
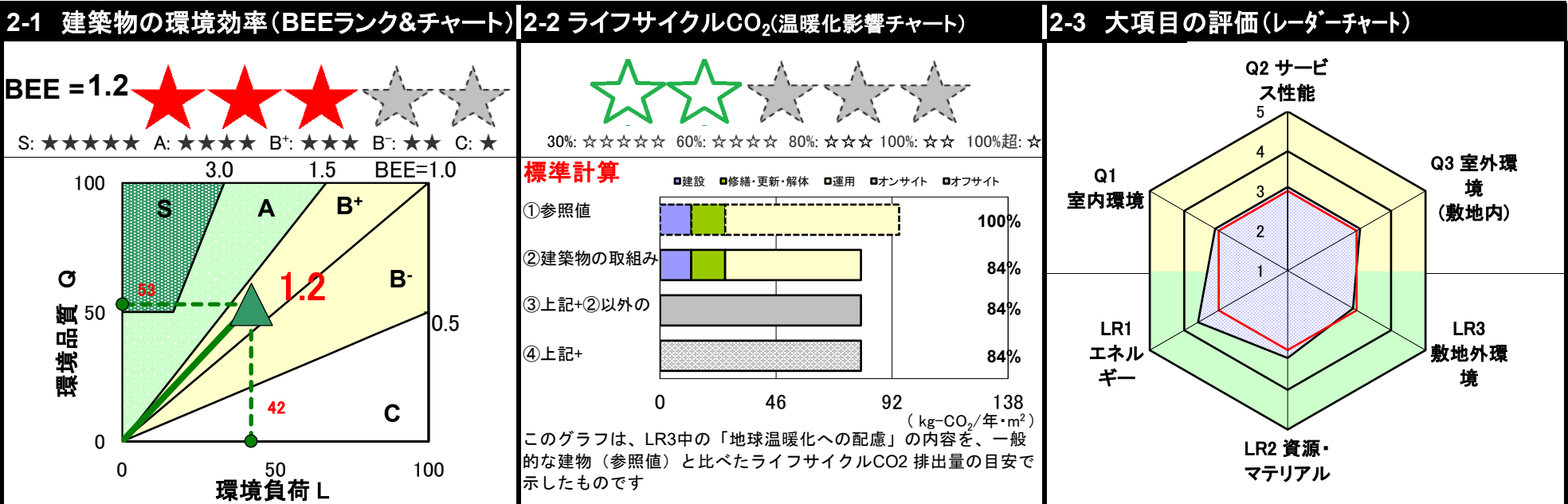


CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新北区文化センター	階数	地下1階地上4階
建設地	神戸市鈴蘭台西町1丁目22-12、23-42	構造	RC造
用途地域	準防火地域、近隣商業地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,640 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年2月17日
敷地面積	3,807 m ²	作成者	株式会社石本建築事務所 藤本 冨
建築面積	2,839 m ²	確認日	
延床面積	7,289 m ²	確認者	



3 CASBEE神戸 の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.8 Q-2/2.4 信頼性 2.8	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 3.0
配慮の概要 バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす	配慮の概要 保有水平耐力Q _{ul} は必要保有水平耐力Q _{un} の1.25倍を確保	配慮の概要 周辺の傾斜に合わせた段丘状の建物形状とし、屋上緑化を積極的に行っている
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新
(仮称)新北区文化センター

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.1	
Q1 室内環境					0.40	-	-	3.1	
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.3	0.35	-	-	3.3	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		ソックダクトによる気流速度を低減した空調方式を採用		4.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.8	0.25	-	-	2.8	
3.1 屋光利用				3.0	0.30	-	-		
1 屋光率				3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-		
3 屋光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 屋光制御				2.0	-	-	-		
3.3 照度				2.0	0.20	1.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.50	1.0	-		
4 空気質環境				3.2	0.25	-	-	3.2	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	1.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	1.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	1.0	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙可能な空間なし		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1	
1 機能性				3.1	0.40	-	-	3.1	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	1.0	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	1.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	1.0	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.00	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内装、外装ともに維持管理に配慮した仕様を採用		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.3	0.30	-	-	3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		保有水平耐力Quは必要保有水平耐力Qunの1.25倍を確保		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				1.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクト及び厨房排気ダクトにステンレスを採用		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管にPE管及びHIVP:B 排水通気管にVP:Bを採用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				2.7	0.30	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり				3.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			-	-	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	1.00	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		各室外気置場に予備スペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			バルコニーにより、日射遮蔽を行い、内部と外部の中間領域を確保	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI][BPI _m]=0.76	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]: 0.78	3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型大便器、擬音装置付き温水便座、節水コマの採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			敷地外への熱的な影響を低減	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			自転車駐輪場、自動車車庫について十分なスペースを確保	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					2.4	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	